

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちはいつたなぜこれほど生きづらくなったのでしょうか。お金がないからでしょうか。先行きの保証がないからでしょうか。夢が持てないからでしょうか。仕事がないからでしょうか。それとも、生き甲斐を見つけれないからでしょうか。

（中略）

まず一つ目は、グローバル化が進み、多様化が進むところか、むしろ人びとの価値観が画一化し、「代替案」というものを考えられなくなったことです。

どんなものでも答えは一つではありません。常識的によいといわれていることのほかに、自分にとって最適の何かがあるはずです。しかし、多くの人がそれを見つけれなくなっているのです。

たとえば、進学、就職、収入、社会活動、人間関係、恋愛、あるいは趣味や暮らし方……。どのような生き方が賢くて、どのような働き方が尊敬されて、どのような生活スタイルがカッコいいのか。そうしたことに①いての価値観が異様なくらい画一的になっていて、それ以外のものを思いめぐらす想像力がないのです。一つの価値観しか持っていないと、それが崩れたときに逃げ場がないという恐ろしさがあります。

いじめやひきこもりなどの問題も、これと無関係ではありません。先だってこんなことがありました。ある若者から、いじめにあつて学校に行けなくなり、家庭内でもうまくいかず、悩んでいるという話を聞いたのです。そこで私は、それなら家出でもして知らない土地に行つてやり直したらどうかと言いました。すると、家出？ そんなことは思いもよらない、そういうことではなく、いまこの現状をよくするためにどうしたらいいかを知りたいのだという、まったくすれ違ひの反応が返ってきました。

私としては、その生き方がどうしても苦しいならリセットしたらいと思うのです。いまの学校がダメなら別の学校に入る。いまの土地がダメならよそへ行く。家族との関係がダメなら一人暮らしをする。コンビニなどでバイトでもすれば若者一人くらいなんとか生きていけるでしょう。我慢したあげくに死を選んでしまうより、まったくいいはずですよ。

それにもかかわらず、いま自分が手にしている価値観を捨てられない人が多いのです。それを捨て去つても人生は続く、いくらでも別の人生はあるというふうになんか考えられなくなっているのかもしれない。

（中略）

二つ目は、人と人とのつながりが薄れ、危機に陥つても誰も助けてくれない、少なくともそう思っている人

びとが多いということです。

たとえば、大学を卒業しても職につけない人、リストラにあつて再就職の見込みもない人、成果をあげられず仕事が回つてこない人、健康保険料を払えず病気の治療もできない人、心を病んで家から出ることもできなくなつてしまった人……。そういう人を見ても、手が差し伸べられなくなりつつあります。

誰もそういう人を気の毒に思わないわけではないのです。痛ましくも思うのです。しかし、見て見ぬふりをしてしまう人が多いのです。明日はわが身かもしれないと恐れるあまり、かわりあいになることを避け、ガードを固めているのです。ふと見渡せば、われわれはみな孤立して、「隣人」を失つてしまいつつあるのではないのでしょうか。

② 私たちはいつから相互扶助の精神を忘れたのでしょうか。いつから「お互いさま」が死語になったのでしょうか。いまでは、困っている人を助けられないことを冷血と非難するより、むしろ、怠け者に足をひっぱられるのは不合理だという考え方のほうが先に立ちます。悲しいことです。社会全体の通念がすでにそうなりつつあります。「働かない者になぜ金をやるのか」「できない者に仕事を与える必要はない」「失敗したのはリスク管理能力がないからだ」

このような考え方には、すべての責任を個人の問題に還元して、社会に不利益が生じないようにしようとす

る意識がそこに見えます。友人関係などもそうです。たいていの人が深い人づきあいをすることを避け、いざとなつたらサツと切るこ

（姜尚中『心の力』集英社より、一部改）

問 文中の傍線部分①および②を踏まえて、あなたは、将来、どのような社会が望ましいと思いますか。あなたの考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で述べなさい。